



London, Great Britain 2016/6/25

アルティメット、はじめてみませんか。

IOC・IPC承認競技フライングディスクのメジャー種目

アルティメット公式ガイド 2017

01 フライングディスクの歴史

フライングディスクの起源は、1940年代にアメリカ合衆国コネチカット州にあるエール大学の学生が、キャンパス近くの「フリスビー・パイ」というパイ屋のパイ皿を投げて遊んだこととされています。そして、その金属製パイ皿を投げて遊ぶ姿を見たウォルター・フレデリック・モリソンが、1948年にプラスチック製の安全なディスクを作った後に、製造・販売の権利をモリソンから取得したワーム・オー(Wham-O)社が1959年に"Frisbee"の名称を登録商標として売り出したことから世界中に広まりました。

玩具として売り出された「フリスビー」ですが、優れた飛行特性を活かした様々な種目が生み出され、プラスチック製ディスクとそれを使ったスポーツ競技種目を総称する一般名称の「フライングディスク」が1984年に制定されました。材質や形状に改良が重ねられた現在のフライングディスクの飛行性能は、最長飛距離「338.0m」、最高時速「時速152.9km」、最長滞空時間「16.72秒」とギネスブックに認定されるほど優れたものとなり、IOC承認スポーツとして各国で親しまれています。アルティメットの試合では、世界フライングディスク連盟公認国際大会や日本国内のほぼ全ての大会において、直径27cm、重さ175gの「ウルトラスター」(ディスクラフト社製)が使用されています。

フリスビー・パイのパイ皿



「フリスビー」(ワーム・オー社製)



JFDA公認 アルティメット用ディスク

「ウルトラスター」(ディスクラフト社製)



02 アルティメットの歴史・統計

アルティメットは、英語で「究極」という意味で、1968年に高校生であったジョエル・シルバーが考案し、アメリカ合衆国ニュージャージー州メイプルウッド市のコロンビア高校で最初のゲームが行われた7人制のチームスポーツです。他の球技にはないディスクの飛行特性や走力、持久力を必要とすることに加えてセルフジャッジで試合を行うことから究極(Ultimate)という名前が付けられました。100m近くも飛ぶ「ロングシュート」や多彩なスローを使った「華麗なパスワーク」、空中に浮いているディスクを「ダイビングキャッチ」でつかむ瞬間や相手チームのパスを「ダイビングブロック」する瞬間など、ダイナミックなプレーが魅力のスポーツです。芝生の上でのプレーだけでなく、砂浜で試合を行う「ビーチアルティメット(5人制)」も正式な種目として公認されています。通常よりも小さいフィールドで行う5人制のアルティメットも日本で普及しつつあります。

アルティメットは2012年度から中学校学習指導要領(保健体育)にゴール型種目として採用され、フライングディスクの代表的な種目として小・中・高校世代への普及も進んでいます。ユース世代からマスター世代までが日常的にアルティメットを楽しめる環境作りが求められており、総合型スポーツクラブなどへの普及に注力をしています。また、平日の夜を活用した「ナイトアルティメット」への注目も高まっています。

2016年度国内統計詳細データ (2017年2月28日現在)

※競技者：該当する国の協会に登録している会員
データ出處 World Flying Disc Federation Census (2004-2015)

会員数	18歳以下	19～22歳	23～30歳	31～40歳	41歳以上	不明	合計
男性(人)	10	2,153	609	249	242	8	3,271
女性(人)	6	1,153	234	71	49	2	1,515
合計(人)	16	3,306	843	320	291	10	4,786
比率(%)	0.3	69.1	17.6	6.7	6.1	0.2	100.0

	大学			クラブチーム					
部門	メン	ウィメン	ミックス	メン	ウィメン	ミックス	マスターメン	マスターウィメン	合計
チーム数	91	63	0	40	15	21	10	0	240

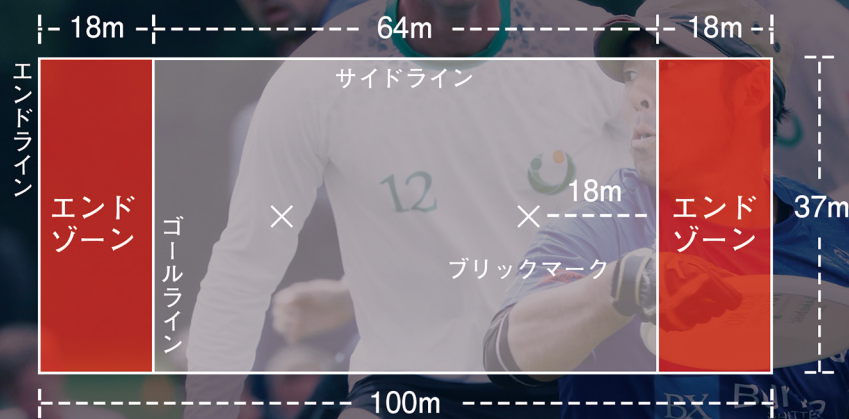
世界全体の競技者数推移 (2015年4月1日現在 / 単位：人)



日本国内の競技者数推移 (2017年2月28日現在 / 単位：人)



03 アルティメットのルール



100m×37mのフィールド内でディスクをパスによって運び、相手陣地のエンドゾーン内でディスクをキャッチすると得点（1点）となるチームスポーツです。試合はディフェンスチームのスローオフから開始します。オフェンスチームは、パスをつないで相手陣地のエンドゾーンを目指します。ディフェンスチームはマンツーマンディフェンスを基本として、オフェンスチームのパスを妨げます。世界大会公式ルールでは15点を先取（得点制）したチームの勝利となります。

プレー中は原則として身体接触が禁止されているため、フィールドスポーツでは珍しく男女混合形式での試合が可能です。使用するディスクは風の影響を受けやすいため、得点が入る度にお互いの攻める方向を入れ替えます。

基本ルール

1. フィールドの端にあるエンドゾーン内でディスクをキャッチすると得点
2. ディスクを持っている人は歩いてはいけない（10秒以内にパスをする）
3. ディスクが地面についたら攻守交代
4. 身体接触は禁止
5. 自己審判制（セルフジャッジ）で試合を進める

04 スピリット・オブ・ザ・ゲーム

アルティメットの公式ルールは、選手が意図的に反則をすることはないという前提で作られており、自己審判制（セルフジャッジ）を採用していることが最大の特徴です。試合中は、反則が発生したと判断した任意の選手がコールを行うことができます。

このコールに対して意見の相違が生じた場合は「自身のチームに有利/不利ではなく、発生した事実に対して忠実に判断をする」や「自分ではわからないという選択肢を持ち、相手の方が事実を知っているという可能性を認識する」という考えのもと、当事者同士で協議を行ってお互いが納得する結論を自分達で導くことで解決を図ります。試合中はこの「スピリット・オブ・ザ・ゲーム（SOTG）」という各選手のフェアプレイに対する責任感を基盤としてプレーに臨むため、勝利を求める情熱的なプレーと審判としての客観的な判断が同時に求められます。

この「スピリット・オブ・ザ・ゲーム」は、問題を当事者同士で解決することを原則としているため、世界平和の見地からもオリンピック憲章にふさわしい考え方として日本体育協会でも高く評価されています。



05 世界大会への日本代表派遣

がんばろう日本
2016 Kumamoto earthquakes

世界ランキング 日本 第4位 (2017年2月現在)

第1位 アメリカ / 第2位 カナダ / 第3位 イギリス / 第5位 ドイツ

2017年度

WFDF2017世界ビーチアルティメット選手権大会
2017年6月18日(日)～24日(土) フランス・ロワイヤン

WFDF2017アジア・オセアニアアルティメット & ガッツクラブチーム選手権大会
2017年8月17日(木)～20日(日) フィリピン・マニラ

ワールドゲームズ2017 ヴロツワフ大会
2017年7月21日(金)～23日(日) ポーランド・ヴロツワフ

WFDF2018世界U-24アルティメット選手権大会
2018年1月7日(日)～1月13日(土) オーストラリア・パース

2018年度

WFDF2018世界アルティメットクラブチーム選手権大会
2018年7月14日(土)～21日(土) アメリカ・オハイオ シンシナティ

WFDF2018世界マスターズアルティメットクラブチーム選手権大会
2018年7月29日(日)～8月4日(土) カナダ・マニトバ ウィニペグ

WFDF2018世界ジュニアアルティメット選手権大会
2018年8月19日(日)～25日(土) カナダ・トロント ウォーターラー



直近の日本代表成績

WFDF2012世界アルティメット & ガッツ選手権大会 (2012年7月 大阪・堺市)
ウィメン (女子) 部門 優勝 / ミックス (男女混合) 部門 第3位

WFDF2015世界U-23アルティメット選手権大会 (2015年7月 イギリス・ロンドン)
ウィメン (女子) 部門 優勝 / メン (男子) 部門 第3位

WFDF2013世界U-23アルティメット選手権大会 (2013年7月 カナダ・トロント)
ウィメン (女子) 部門 準優勝 / ミックス (男女混合) 部門 第3位

WFDF2016世界アルティメット & ガッツ選手権大会 (2016年6月 イギリス・ロンドン)
メン (男子) 部門 準優勝

06 全日本選手権大会

2017年度

文部科学大臣杯第42回全日本アルティメット選手権大会

日本一を決める最高峰の戦い (2016年度参加実績: 137チーム 2,023人)

開催部門 メン部門 / ウィメン部門

北海道・東北地区予選 2017年6月10日(土)～11日(日) 宮城県柴田郡 国営みちのく社の湖畔公園

関東地区予選 2017年6月3日(土)～4日(日) 茨城県ひたちなか市 新光町グラウンド

中部地区予選 2017年5月27日(土)～28日(日) 長野県上田市 菅平高原 サニアパーク菅平

関西・中四国地区予選 2017年6月3日(土)～4日(日) 大阪府堺市 J-GREEN堺

九州・沖縄地区予選 2017年6月上旬 福岡県 (予定)

本戦 2017年7月1日(土)～2日(日) 静岡県富士市 富士川緑地公園

決勝戦 2017年7月15日(土) 神奈川県川崎市 富士通スタジアム川崎

第28回全日本大学アルティメット選手権大会

大学チャンピオンを決める熱戦 (2016年度参加実績: 144チーム 2,583人)

開催部門 メン部門 / ウィメン部門

北海道・東北地区予選 2017年8月下旬 北海道 (予定)

関東地区予選 2017年9月5日(火)～7日(木) 茨城県ひたちなか市 新光町グラウンド

中部地区予選 2017年9月5日(火)～7日(木) 愛知県名古屋市中区 岡崎中央総合運動公園

関西・中四国地区予選 2017年8月30日(木)～31日(金) 大阪府堺市 J-GREEN堺

九州・沖縄地区予選 2017年8月31日(木)～9月1日(金) 熊本県菊池郡 大津町運動公園

本戦 2017年9月23日(土)～24日(日) 静岡県富士市 富士川緑地公園

決勝戦 2017年9月30日(土) 東京都世田谷区 駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場

第27回全日本大学新人アルティメット選手権大会

世代交代を懸けた大学1・2年生による全国大会 (2016年度参加実績: 130チーム 1,784人)

開催部門 メン部門 / ウィメン部門

2018年2月23日(金)～25日(日) 静岡県富士市 富士川緑地公園

アルティメットクラブチームチャンピオンズリーグ2017

クラブチームの日本一を決める戦い (2016年度参加実績: 39チーム 698人)

開催部門 メン部門 / ウィメン部門

2017年10月28日(土)～29日(日) 静岡県富士市 富士川緑地公園

メン部門

★★★トリプルスター (5チーム)

★★ダブルスター (10チーム)

★シングルスター (上記に該当しないクラブチーム)

ウィメン部門

★★★トリプルスター (5チーム)

★★ダブルスター (上記に該当しないクラブチーム)

第5回全日本マスターズアルティメット選手権大会

マスターズ部門の日本一を決める大会 (2016年度参加実績: 10チーム 161人)

開催部門 マスターメン部門 / マスターウィメン部門

2017年9月23日(土)～24日(日) 静岡県富士市 富士川緑地公園

※大学選手権本戦と同日程・同会場

第5回全日本ミックスアルティメット選手権大会

ミックス部門の日本一を決める大会 (2016年度参加実績: 17チーム 332人)

開催部門 ミックス部門

2017年12月上旬 中部地区 (予定)

第2回全日本ビーチアルティメット選手権大会

ビーチアルティメットの日本一を決める大会 (2016年度参加実績: 5チーム 49人)

開催部門 メン部門 / ウィメン部門 / ミックス部門

2018年3月3日(土) 沖縄県石垣市 南ぬ浜町人工ビーチ

07 ユース世代・大学生への取り組み

ユース世代対象

第4回全国ユースアルティメット選手権大会
2017年9月上旬 関東地区(予定)

ユース世代(小・中・高校生)を対象としたアルティメットの環境が全国各地で広まりつつあります。学校教育現場や総合型スポーツクラブなどで、子供達が運動を楽しんでいるきっかけとして、またスポーツを続けてきた子供達の新しい選択肢として非常に魅力的な種目です。U20日本代表へと直結するこの世代への普及が、今後の大きな課題となっています。



大学生以下対象

2017U-23地区選抜対抗戦
開催部門 メン部門 / ウィメン部門 / ミックス部門
2017年11月18日(土)~19日(日)
京都府宇治市 京都府立山城総合運動公園

日本代表が【世界一のニッポン】を目指す上で基盤となる「大学生以下世代の全国的なレベルアップ(個人スキル&SOTG)」や「同世代の地区を超えた相互意識」、「指導者の育成」を目的としたプロジェクトです。

全国を5地区(北海道・東北/関東/中部/関西・中四国/九州・沖縄)に分割し、地区別練習会・地区代表選考会・地区代表練習会を通して選抜・強化した選手を一同に集め、地区選抜対抗戦を開催します。



08 最新のトピック

ワールドゲームズ2017 ヴロツワフ大会へ日本代表が出場

IOCが後援する非五輪種目の国際総合競技大会「ワールドゲームズ」の第10回大会が2017年7月にポーランド・ヴロツワフにて開催されます。2020東京五輪追加競技は全てワールドゲームズ競技です。フライングディスク競技では2016年6月の世界アルティメットの結果をもとに、アメリカ・カナダ・オーストラリア・日本・コロンビア・ポーランドに出場権が与えられました。2024年夏季五輪での追加競技入りの可能性もあり、日本が世界で勝つことのできる団体種目としての地位を確立するため、万全の強化体制でポーランド大会へ臨みます。

2024年夏季五輪競技入りをを目指す世界フライングディスク連盟

2024年開催のオリンピック開催地がアメリカ・ロサンゼルスに決定した場合、フライングディスク(アルティメット)が追加競技として採用される可能性が高いと言えます。また、国際オリンピック委員会(IOC)が打ち出した「オリンピックアジェンダ2020」という改革案で謳われている「男女混合の団体種目を推進する」や「若者に人気のスポーツに注力をする」という条件に適合しているという点もフライングディスク競技のアピールポイントです。世界フライングディスク連盟は2015年よりIOC承認団体ですが、オリンピック競技に採用される目安である75カ国に対し、2017年2月現在で69カ国(3年で+13カ国)まで加盟国数を増やすなど世界各国で普及活動を推進しています。

SPORT FOR TOMORROWを通じたスポーツ庁等との連携

SPORT FOR TOMORROWは、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京に招致する際、IOC総会において安倍晋三首相が発表したことをきっかけに始まった日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業です。2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100カ国以上・1000万人以上を対象としたあらゆる世代の人々にスポーツの価値を広げていく取り組みです。

日本フライングディスク協会では、この事業の一環として関係団体と協力し、コンゴ民主共和国やウガンダ共和国、ジンバブエ共和国、ルワンダ共和国、ベネズエラ・ボリバル共和国、ニカラグア共和国、ラオス人民民主共和国に全日本選手権での使用済みゲームディスクを寄贈しています。また、この活動は2016年10月に東京で開催された「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」にて、スポーツ庁から各国スポーツ大臣及び関係者に向けて発表されました。



フライングディスクのこれから ～2024年五輪追加競技入りを目指して～



世界フライングディスク連盟（WFDF）には、2017年2月現在、69の国と地域の協会が加盟しています。
日本国内では、2014年に日本フライングディスク協会（JFDA）がJOC（日本オリンピック委員会）への加盟が認められ、2015年8月には世界フライングディスク連盟がIOC（国際オリンピック委員会）承認競技団体となりました。

「アルティメット」は2012年度より中学校の学習指導要領（保健体育）にゴール型種目として採用されており、フライングディスクという道具をコントロールする能力やものを遠くに飛ばす能力、俊敏な切り返しや動きを継続する力などを向上させる体力測定の数値向上に適切な教材として、また同時に、審判を置かない「セルフジャッジ」に基づいた自発的なルールの遵守や仲間との対話などを通じたフェアプレーのアクティブ・ラーニングを展開できる種目として数多くの中学校の授業に取り入れられ、小学校・高校・大学でも普及が進んでいます。

世界フライングディスク連盟は、IOCが2014年12月に決定した「オリンピック アジェンダ2020（20+20=40の改革案）」によって開催地主導での競技追加が可能になったことを受けて、アメリカ・ロサンゼルスが立候補している2024年夏季オリンピック競技大会での追加競技入りを旨することを公表しました。2020年に開催される東京オリンピックで開催されることが模索されている「スポーツ・ラボ（スポーツ体験プログラム）」への参画、2021年に米国アラバマ州バーミングハムで開催されるIOC後援の未五輪競技の国際総合競技会「ワールドゲームズ」での公式競技としての高評価を経て、2024年にオリンピック競技として採用されることを目指し、質と量両面の向上を目指しています。

協賛企業

スペシャルスポンサー

BX 文化シヤッター

伊藤忠エネクス

スポンサー

SEKISUI

代表ユニフォームサプライヤー

パートナー

CLUB J

旅 京王観光

サポート

DISCRAFT

KINESIO TAPING ASSOCIATION

patagonia

SNS・協会情報

最新情報・大会結果・写真

ハイライト映像

ライブ配信

Find us on: facebook

twitter

YouTube

FRESH!



このガイドブックは
toto助成を受けて製作しています。

Japan Ultimate

発行元

一般社団法人日本フライングディスク協会

〒144-0033 東京都大田区東糀谷6-4-8

TEL: 03-6423-6801 FAX: 03-4335-2381

Email: info@jfda.or.jp Website: http://www.jfda.or.jp/

SPORT FOR TOMORROW

スポーツ・フォー・トゥモローとは

2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京に招致する際、IOC総会において安倍晋三首相が発表したことをきっかけに始まった日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業です。2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100カ国以上・1000万人以上を対象としたあらゆる世代の人々にスポーツの価値を広げていく取り組みです。

全日本選手権の公式ゲームディスクは、大会終了後にスポーツ庁と連携したスポーツ・フォー・トゥモロー認定事業として、アジアやアフリカをはじめとした海外におけるフライングディスク普及活動に使用されます。

海外におけるフライングディスク普及活動を予定されており、サポートをご希望される方は、当協会までお問い合わせください。

お問い合わせ先

日本フライングディスク協会 事務局

メールアドレス：info@jfda.or.jp

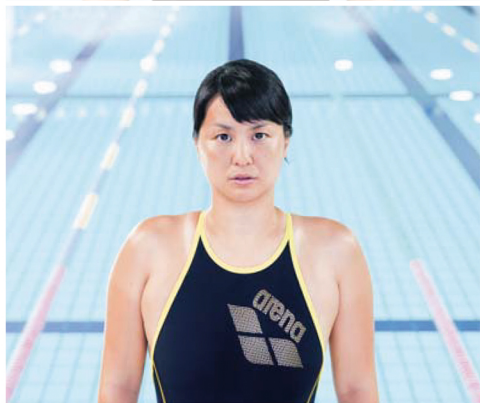
電話番号：03-6423-6801

FAX：03-4335-2381



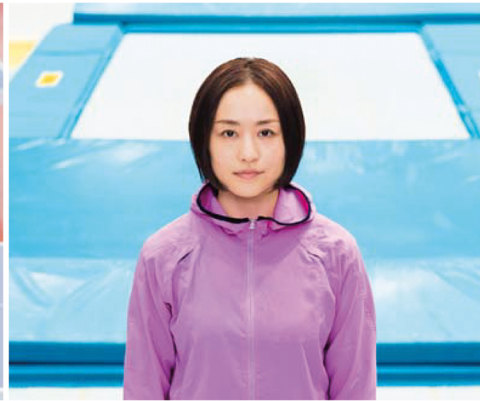
スポーツ・フォー・トゥモロー 認定事業

慶應義塾大学バスケット出身の大川晴氏が2012年在学中にコンゴ民主共和国へ滞在をしたことをきっかけとして、同国におけるフライングディスクの普及が開始。2014年に世界フライングディスク連盟に加盟し、2016年6月にイギリス・ロンドンにて開催される「WFDF2016世界アルティメット&ガッツ選手権大会」への出場を予定していたが今回は叶わず、次大会での初出場を目指して現在も活動中。



前を向け。 未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。
若い君たちの可能性こそが未来だ。



スポーツくじ



スポーツは育てることができる。



スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-growing.com 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター